

## 国際学部 10 周年記念『国際学研究』の発刊に寄せて

「国際学」とはどのような学問なのか。この問題については学部発足の当初から、さまざまな議論があり、その後現在にいたっても状況はさして変わっておらず、格別の定義が生まれたわけでもない。それは学問的怠惰であるかのように思われるかもしれないが、もともと、「国際学」とは、国家をはじめ民族や諸「共同体」間の関係を重層的に解明しようとする学問領域であり、狭隘で静的な定義はなじまない。むしろ、研究者の豊かな個性に支えられて展開する学問領域だといった方があっているであろう。

今回、本学部の専任教員が学部創設 10 周年を記念して、思い思いにその学問的関心の一端を披露することになった。一見すると雑多な印象を与えるかもしれないが、個々の論文の背後にそれぞれの「国際学」を見いだすことができると考えている。

これを機会にあらためて「国際学」の課題を検討し、内外の流動する現実を見据えることができる方法論を提示してゆきたいと願っている。

末文になったが学部創設以来種々の助力を惜しまれなかった関係各位に感謝申し上げるとともに、今後とも変わらぬご支援をお願いして発刊の言葉とする。

1997 年 3 月 20 日

国際学部長

阿 満 利 麿